

知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践

日時 令和4年9月9日(金)
 対象 盛岡市立向中野小学校 知的障がい特別支援学級
 指導者 総合教育センター 研修指導主事 藤井 未央
 盛岡市立向中野小学校 教諭 松川 紀子

1 単元名	
みちあんないを しよう	

2 単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア)	① 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考慮することができる。(A(1)イ) ② 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(A(1)ウ)	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「話すこと・聞くこと」において、行動したことや経験したことに基いて、相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えている。(A(1)イ) ② 「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	進んで話す事柄の順序を考え、学習課題に沿って相手に伝わるように道案内をしている。

4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
<ul style="list-style-type: none"> 道案内を聞きながら、校舎内を歩く体験を通して、道案内に興味をもつことができるようにする。 単元計画を視覚的に示したり、単元の最後は、担任外の教員に交流学級までの道案内をすることを示したりすることで、見通しをもって最後まで取り組むことができるようにする。 交流学級までの道案内をするために、原稿作りを指導者と話し合いながら進めたり、自分に合った方法を選択したりすることで、道順に沿って事柄を整理することができるようにする。また、道案内の原稿作りや発表の仕方は、一人一人方法が違ってよいことを共通理解する。 写真の投影や、プレゼンテーションアプリを活用して、自分に合った方法で道案内をすることができるようにする。

5 情報活用能力について							
本単元の実践で、児童生徒に必要なICTの基本操作							
<input type="checkbox"/>	PCの起動や終了	<input type="checkbox"/>	写真や動画の撮影	<input type="checkbox"/>	写真や動画の視聴	<input type="checkbox"/>	写真や動画の編集
<input type="checkbox"/>	文字の入力	<input type="checkbox"/>	ファイルの呼び出し・保存	<input type="checkbox"/>	アプリケーションの操作	<input type="checkbox"/>	ブラウザでのインターネット検索
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	問題解決のための活用	<input type="checkbox"/>	クラウドの協働作業	<input type="checkbox"/>	情報モラル・情報セキュリティ

6 単元の指導と評価の計画（全6時間）					
時	学習活動	指導上の留意点	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 道案内を聞きながら、校舎内を歩く。 自分たちも道案内をするという課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 道案内を聞きながら、校舎内を歩く体験を通して、道案内に興味をもつことができるようにする。 単元の最後には、担任外の教員に交流学級までの道案内をすることを示し、単元の見通しをもつことができるようにする。 	態		【態度】 〔行動観察〕 道案内についてこれまでの経験と結びつけて積極的に考え、単元計画に沿って見通しをもっているか確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 「分かりやすい道案内」を知る。 道案内する場所と目印になるもの確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の体験を振り返り、指示語の使い方や目印になるものなどの視点を示し、相手に「分かりやすい道案内」を理解することができるようにする。 	知		【知・技】 〔行動観察・発言・記述〕 道案内をするために、必要な事柄を選んでいるか確認する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 目印になるものを撮影しながら、道順を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次時以降の資料になることを伝え、右折や左折をする場所や、目印になるものを撮影できるようにする。 	知	○	【知・技】 〔行動観察・写真の記録・発言〕 目的地までの道順や、目印になるものを理解しているか確認する。
4 5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 道案内の内容を考え、発表原稿を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に正しく伝えるためのポイントを示したり、撮影した写真を見たりしながら、道順を想起することができるようにする。 話す事柄を整理しながら、発表原稿を作ることができるようにする。 発表方法を複数示し、自分に合った方法を決めて、繰り返し練習することができるようにする。 	思 態	○	【思・判・表①】 〔記述・発言〕 相手に正しく伝えるためのポイントや、撮影した写真に基づいて、話す事柄の順序を考えているか確認する。 【態度】 〔行動観察〕 課題に沿って練習しながら、道案内の内容を考えているか確認する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 道案内の発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の道案内を聞きながら、担任外の教員が校舎内を歩くことを確認し、相手意識をもって発表することができるようにする。 	思		【思・判・表②】 〔行動観察・発言〕 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫しているか確認する。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

相手に正しく伝えるためのポイントや、撮影した写真に基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。

(2) 学校におけるICTを活用した学習場面



(3) コンピュータでできること	
	個別のドリル学習
	試行錯誤する
<input type="radio"/>	写真撮影する
	念入りに見る
	録音・録画と再視聴
	調べる
	分析する
	考える
<input type="radio"/>	見せる
<input type="radio"/>	共有・協働する
	その他 ()

(4) 活用するICT機器等

<input type="radio"/>	PC (ノート・タブレット)	電子黒板	大型テレビ
	書画カメラ	ウェアブラウザ	デジタル教科書
<input type="radio"/>	プロジェクター (スクリーン)	授業支援ソフト	動画コンテンツ
<input type="radio"/>	プレゼンテーションソフト	ドリル教材	ウェブ会議システム
	その他 ()		

(5) 学習場面でのICTの活用の仕方、目指す子供の姿						
本時では、「相手に正しく伝えるためのポイントや、撮影した写真に基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。」を目指す。そのために、以下の二つの学習場面でICTを効果的に活用していく。						
児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F	児童G
〔A1 教員による教材の提示〕						
【A 一斉学習】	<p>校舎内の写真を示したり、第1時の道案内を視聴したりして、道案内を聞いて校舎を歩いた体験を想起できるようにする。その中で、提示する写真の順番や順序を表す言葉を振り返ることで、「分かりやすい道案内」について考えることができるように支援する。また、本時は、自分たちが道案内をするための発表原稿を作る時間であることを確認し、原稿の例を見ながら見通しをもって取り組むことができるようにする。</p>					
〔B1 個に応じた学習〕						
【B 個別学習】	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を並べ替えたり順序を並べ替えて、発表原稿を作る支援をする。	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を使用し、発表原稿を作る支援をする。	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を使用し、発表原稿を作る支援をする。	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を使用し、発表原稿を作る支援をする。	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を使用し、発表原稿を作る支援をする。	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の順序を捉えたり、撮影した写真を使用し、発表原稿を作る支援をする。

(6) 本時の指導案 (4・5/6)

指導上の留意点							
【 】 評価 (◇評価) 【 】 活用するICT機器等							
	児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F	児童G
<p>学習活動</p> <p>1 学習課題を把握する。前時までの学習や単元計画を振り返り、本時の学習を確認する。</p> <p>2 発表原稿の作り方を確認する。</p>	<p>児童A</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元計画表を見ながら、確認できるようにする。 校舎内の写真を提示したり実際の道案内を再生したりして、児童が道案内を聞いて校舎を歩いた体験を想起できるようにする。 PC、プロジェクター 教師による教材の提示 [A1] 	<p>児童B</p> <p>みちあんなのじゅんびをしよう。</p>	<p>児童C</p>	<p>児童D</p>	<p>児童E</p>	<p>児童F</p>	<p>児童G</p>
<p>導入 10分</p>	<p>・第2時に学習した「分かりやすい道案内」を確認し、自分の発表原稿の中に取り入れる意識をもつことができるようにする。</p> <p>・撮影した写真が、目的のままであるか確認する。</p> <p>・写真に合わせた発表原稿を考えるように促す。</p> <p>・発表原稿を文字で書く、または語り出しを音声で残すなど方法を選ぶことを示し、自分に合った方法で発表することを伝える。</p> <p>・「分かりやすい道案内」を確認しながら、順序を表す言葉を使うように促す。</p> <p>■Windows タブレット 個に応じた指導 [B1]</p>						
<p>展開 70分</p>	<p>・写真や発表原稿を、ロイロノートを使って整理すること伝える。</p> <p>・基本的なロイロノートの使い方を教える。</p> <p>・「分かりやすい道案内」を確認しながら、発表原稿に盛り込むことを促す。</p> <p>■Windows タブレット 個に応じた指導 [B1]</p>						
	<p>・撮影した写真が、目的のままであるか確認する。</p> <p>・写真に合わせた発表原稿を考えるように促す。</p> <p>・発表原稿を文字で書く、または語り出しを音声で残すなど方法を選ぶことを示し、自分に合った方法で発表することを伝える。</p> <p>・「分かりやすい道案内」を確認しながら、順序を表す言葉を使うように促す。</p> <p>■Windows タブレット 個に応じた指導 [B1]</p>						
	<p>・写真や発表原稿を、ロイロノートを使って整理すること伝える。</p> <p>・基本的なロイロノートの使い方を教える。</p> <p>・「分かりやすい道案内」を確認しながら、発表原稿に盛り込むことを促す。</p> <p>■Windows タブレット 個に応じた指導 [B1]</p>						

<p>展開 70 分</p>	<p>3 自分に合った方法で、発表原稿を作る。</p>	<p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことを基づいて、話す事柄の順序を考え、確認する。 【思・判・表】(1・2年生)</p>	<p>◇相手に伝わるように、目印を挙げながら、全体と情報との関係について理解しているかを確認する。 【思・判・表】(3・4年生)</p>	<p>◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことを基づいて、話す事柄の順序を考え、確認しているかを確認する。 【思・判・表】(1・2年生)</p>	<p>◇相手に伝わるように、目印になるものを挙げながら、全体と中心など、情報と情報との関係について理解しているかを確認する。 【思・判・表】(3・4年生)</p>
<p>終末 10 分</p>	<p>4 学習を振り返る。「発表原稿を作ることができたか」という視点で学習を振り返る。振り返りカードに記入する。</p>	<p>・道順と写真が合っているか、順序を表す言葉を使い、振り返りポイントを確認する。また、タブレットを使った感想を発表するように促す。</p>	<p>・「分かりやすい道案内」を踏まえ、目印を入れること、振り返りポイントを確認する。また、タブレットを使って発表原稿を作成するように促す。</p>	<p>・道順と写真が合っているか、順序を表す言葉を使い、振り返りポイントを確認する。また、タブレットを使って発表原稿を作成するように促す。</p>	<p>・「分かりやすい道案内」を踏まえ、目印を入れること、振り返りポイントを確認する。また、タブレットを使って発表原稿を作成するように促す。また、友達の発表を聞いて思ったことを書くように促す。</p>